

審 議 結 果

会 議 名	第2回盛人大学運営委員会
開 催 日 時	令和7年8月20日（水） 10時00分から11時30分
開 催 場 所	川口市立かわぐち市民パートナーズステーション会議室1・2
出 席 者	松本委員長、仲川副委員長 中本委員、老川委員、高川委員、瀬切委員、坂本委員 竹内課長、下田課長補佐、池田主任、宮田主任、石井主事、金田主事補
議 題	1 開会 2 自己紹介（前回欠席した委員のみ） 3 議事 （1）報告事項 令和7年度の盛人大学運営状況について （2）協議事項 ア 新コースについて イ 令和8年度の講師料及び受講料について （3）その他 4 閉会
公開／非公開の別	公開
非公開の理由	—
傍聴人の数	0名
会 議 資 料	資料1 令和7年度 盛人大学運営状況について 資料2 令和6年度 盛人大学卒業実績 資料3 新コースについて

	資料4 令和8年度 講師料及び受講料について 別添 令和7年度募集案内
審 議 経 過	別紙のとおり
そ の 他	—

審 議 経 過

1 開会（10時00分）

事務局 配布資料について説明。

委員長 挨拶

2 自己紹介（前回欠席した委員のみ）

仲川副委員長、高川委員

竹内課長、下田課長補佐、池田主任、宮田主任、石井主事、金田主事補

事務局 これ以降の進行については、盛人大学運営委員会設置要綱第6条第1項の規定により松本委員長に議長をお願いする。

なお、委員定数9名のところ、出席委員数7名で過半数に達しているため、盛人大学運営委員会設置要綱第6条第2項の規定により本委員会が成立していることを報告させていただく。

委員長 規定により議長を務める。委員の皆様の慎重かつ積極的な審議とスムーズな議事進行への協力をお願いする。

ここで本日の委員会の議事録署名委員を決定する。2名の署名が必要となり、毎回委員長が署名を行う。もう1名の署名人は名簿の順番で、老川委員をお願いすることとしてよいか。

委員 （異議なし）

委員長 それでは今回の議事録署名委員は、老川委員をお願いする。

本日の傍聴希望者はどうなっているか。

事務局 「川口市附属機関等の会議公開に関する要綱」に基づき、会議開催について事前公開したところ、傍聴希望者はなし。

3 議事

(1) 報告事項

令和7年度の盛人大学運営状況について

議長 「(1) 報告事項 令和7年度の盛人大学運営状況について」事務局に説明を求め
る。

事務局 1ページ 資料1 (1)「コース別受講状況」をご覧いただきたい。

令和7年度の募集定員の合計は281名であり、令和7年度の最終受講決定者の
合計は231名となった。なお、A社会教養、C国際、D健康生きがづくり、E
地域デザイン、H社会起業・ビジネスの5コースは定員を下回り、Fボランティア
入門は応募締切り時には定員に達したものの、その後辞退者がでたため追加募集を
行った。

盛人大学受講生全体の平均年齢は66歳、最年長が88歳、最年少が49歳とな
っている。

各コースの概要については後程ご覧いただきたい。

次に、2ページ(2)「市民公開講座の状況」をご覧いただきたい。

資料作成の都合上、8月5日現在のデータとなっている。

市民公開講座は、盛人大学を市民の方に広く周知し、来年度以降に盛人大学に応
募する際の参考としていただくために、川口市内在住・在勤の48歳以上の方を対
象に、体験講座としてカリキュラムの一部を受講できるものである。9月までの公
開講座については5月9日金曜日より受付を開始しており、10月以降の公開講座
は9月10日水曜日より受付する。

3ページ「令和6年度 盛人大学卒業実績」には、令和6年度盛人大学の卒業者
数と卒業率を記載しているため、参考にしていただきたい。

令和7年度の運営状況についての報告は以上である。

委員長 今の説明に対して、質問や意見はあるか。

委員 10年間盛人大学を開講している中で、ずっと定員割れしているコースがあると伺ったが、どのコースか。

副委員長 E 地域デザインコースである。

過去に受けたことがあり、参考までに内容を紹介する。当初はかなり難しい内容となっており、早稲田大学の先生が講座を運営していたものであった。その後、先生の研究室が撤退され、協力が得られなくなってから、卒業生が運営を行っている。

現在、一部の方は講師に適していないと考えている。講師陣を大学関係者にお願いするのかなど、来年度もコースを継続するのであればもっと考えていく必要がある。受講生の中からは、まちづくりの団体を立ち上げた方もおり、盛人大学の趣旨に沿っていると思われる。

しかし、内容が難しいことから途中で辞めてしまう方もいる現状がある。受講生にどのように理解してもらい、どのように活動につなげるかの関連性を説明できる人がいないことが原因である。よって、このコースを継続したいとも考えるが、現実的には難しいと思う。

広報かわぐち以外でも周知をしているのか。

事務局 トリコ川口にも取り上げていただいている。

委員 受講生がひと桁であると、大きな事業としては大丈夫かと心配になる。

良い内容であることは理解できるため、今後の検討材料としていただきたい。

委員 E 地域デザインコースの募集定員はどのようになっているのか。

副委員長 当初から、他コースの概ね半分となっており、運営側にも理解いただいている。

本コースの学問的な地域デザインは、世間で謳われている地域デザインとかけ離れており、盛人大学の地域デザインコースでは、自分の生活エリアのような非常に狭い範囲の話をしており、所謂コミュニティづくりの話をしている。よって、起業したい人にとっては面白いと感じられるかもしれないが、まちづくりについて考える人にとっては、コースのイメージとのギャップを感じるかもしれない。

委員長 その他に質問や意見がなければ、報告事項は以上でよろしいか。

委 員 (異議なし)

(2) 協議事項

ア 新コースについて

委員長 (2) 協議事項 ア 新コースについて事務局の説明を求める。

事務局 4ページの資料3「新コースについて」をご覧いただきたい。

令和6年11月に開催した第1回運営委員会にて、令和8年度より開講する新コースについて、一部を審議いただいた。現在決定している事項は、パソコンに関連する講座であること、令和8年度に開講すること、講師として、一般社団法人大人の小学校に協力をいただくこと、定員を15名とすること、会場をメディアセブンとすることの5点である。本日は、カリキュラムの内容までを含め、より詳細な事務局案を示すため、審議いただきたい。

コース名はITコミュニケーションとし、カリキュラム作成やコース運営などをITコミュニケーション研究会に依頼する。ITコミュニケーション研究会は、新コース運営にあたり、盛人大学卒業生6名と講師である一般社団法人大人の小学校の代表理事、山城(やましろ)純子(すみこ)氏の7名で発足した団体である。会場はメディアセブンのコミュニケーションスタジオを主とし、メディアセブンが利用できない日程についてはかわぐち市民パートナーステーションにて開講する。

講義日程は初回ガイダンスを6月の第1水曜日に開催し、主な講義日を第2水曜日、第1・第5水曜日を調整日としたうえで、講義回数は、大学祭準備、大学祭を含め全14回を予定している。

前回の委員会にて挙げた懸念事項①スタッフの確保、②講義で使用するパソコンの準備について報告する。①スタッフの確保について、ITコミュニケーション研究会にコース運営をしていただく。②講義で使用するパソコンの準備について、当

初予定していたとおり、受講生自身でパソコンを持参して受講していただく。理由としては、会場であるメディアセブンではパソコンの貸出を行っていない点と、受講生が講義後、または卒業後も自身のパソコンを使い、講義で学んだことを活かせるようにするためである。

しかし、講師より、講義で使用するパソコンのバージョンやアプリの搭載について制限を設けたいとの要望を承っており、募集時に周知したい。

受講料については、次の議案で説明する。

受講料とは別に、メディアセブンの会場費を受講生より徴収することを予定しているが、メディアセブンの会場の予約が12月頃開始のため、現時点で会場費の正確な金額を積算することは難しい。よって、会場費にかかる最大料金を徴収し、余剰金が発生した場合は返金対応をすることを検討している。

資料下段の【料金表】をご覧ください。

会場は平日の13時～17時30分の2枠分を使用するため、1回の講義につき、会場代は3,140円となる。大学祭を除き、初回ガイダンス、講義、大学祭準備の全13回をメディアセブンで行う予定のため、総額40,820円となる。令和8年度については、初年度で受講希望者数が推測できないため、総額を定員数である15名で割るのではなく定員15名の8割である12人で計算し、一人あたり約3,402円となるため、3,500円としたい。3,500円は上限金額となるため、会場の確保数次第では金額を下げる場合もあるが、募集案内を作成する時期の都合上、本日は会場費の徴収額を上限3,500円としてよいかを審議いただきたい。次回の運営委員会で確定した金額を報告する予定である。また、令和8年度の開催日程と講座内容については、次のページに記載があるため、併せて確認いただきたい。説明は以上である。

委員長 今の説明に対して、質問や意見はあるか。

副委員長 会場がなぜ、かわぐち市民パートナーステーションではなく、メディアセブンな

のか。

事務局 Wi-Fiを使用するためである。かわぐち市民パートナーステーションでもWi-Fiを設置しているが、過去に別の事業で使用した際に、受講生全員のパソコンを接続することができなかったことがある。

副委員長 日程について、他コースは月曜日としているのに対し、新コースはなぜ水曜日なのか。

事務局 講師の都合により水曜日となった。

副委員長 基本的なことを言えば、かわぐち市民パートナーステーションを使うことが基本だと思う。会場の都合で、水曜日となったのであれば、理解できるが、講師の都合は要件から外れるのではないかと思うがいかがか。

事務局 月曜日を開講日としても、Wi-Fiの関係上、開講が難しい。

副委員長 盛人大学の趣旨に講師の都合は関係ないと思われる。なぜ、月曜日を開講しないのか。

事務局 月曜日に関しては、他のコースの利用状況を鑑みると、夜間しか空いていない状況である。手伝っていただくスタッフからもその時間では難しいと言われている。現在、月曜日に盛人大学を開講している理由は、分室が使えなくなり、本施設が休館日である月曜日であれば、開催できるためである。他コースでも別の曜日に開催していることがあるため、月曜日に開催しなければならないということはない。

副委員長 先ほどの説明で、講師の都合によると話していたため、その点を確認したかった。おそらく打ち合わせの段階で曜日について相談し決まっただろうと推測はできる。曜日を変更することは全く反対しないが、講師の都合で変更することについてはやめていただきたいと思う。

事務局 承知した。

委員 5ページの講義内容について、本コースは今の時代の60代以上の方に適切な内容であるか検討したのか。対象人数がどのくらいいるのかを検討したか伺いたい。

また、ITコミュニケーションコースを卒業した後に何を目標しているのかも併せて伺いたい。

事務局 当初、講義内容をスマートフォンとパソコンのどちらにするか検討した際、スマートフォンは手軽であるが、パソコンと比べ機種やアプリが多岐にわたるため、講義を進めていくうえで様々な制限をかけなければならないと思われる。そうなった場合、受講生が減ってしまうと考えた。また、受講生には自宅でゆっくりと作業していただきたいと考えている。加えて、講義で取り扱うC a n v aというソフトはパソコンの方が機能が充実していることから、パソコンでの開催に決定した。

卒業後に関しては、講義で学んだ知識を活用し、社会貢献活動をする際に必要となる連絡表の作成やイベント等のチラシの作成を行えるようになっていただきたい。

委員 ITコミュニケーションコースは技術を学ぶコースであると考えている。今話にあったとおり、技術を覚えることで社会貢献活動に活用することができると思う。

イメージとして、他のコースを卒業した方が次の技術のレベルアップとして参加することも考えているのか。

事務局 その考えもある。

委員 コースの内容に需要があると考えているのか。

事務局 他のコースにも、パソコンでチラシを作成する機会があった方は多く見受けられた。まずは、そのような方々に受講していただきたい。

委員 卒業生だけを対象とすると、集まりにくくなってしまうことが懸念される。現在の講義内容で応募する人が多くいるのかは疑問に思うが、やってみないと分からないところでもあると思う。

委員 どのような人が受講するのかのイメージが湧かない。

AIの内容だけでも、年代分野に問わず、多くの人に興味を持ってもらえると思う。

今回の講義内容を変えてほしい訳ではないが、発展が早い分野でもあるため、ニ

ーズの把握を含めて、早めに動かなければならないと考える。

委員 現在ある生成AIも非常に使い勝手がよいものであると感じており、来年度以降はこのような内容を含めることも検討してはいかがか。

事務局 意見をいただき、感謝する。

委員 新コースを受講する際は、受講料と別に会場使用料を支払う認識でよいか。

事務局 そのとおりである。

委員長 様々な意見が出たが、ひとまず事務局案で実施し、来年度以降フィードバックを行い再検討としてよいか。

委員 (異議なし)

イ 令和8年度の講師料及び受講料について

委員長 (2) 協議事項 イ 令和8年度の講師料及び受講料について事務局の説明を求め。

事務局 6ページの資料4「令和8年度 講師料及び受講料について」をご覧ください。

盛人大学各コース講師料及び受講料等については、平成27年9月30日に開催した盛人大学運営委員会で審議し、設定に関して基本的な考え方を決定した。

その決定内容は、1「基本的な考え」(1)をご覧ください。ア 各コース講師料については、年間20万円を上限とすること、ただし農業体験コースは単位数に鑑み40万円を上限とする。なお、講師料の年間上限額を決めるにあたり、講師料は1単位、1時間につき1万円が上限として積算する。

次に、受講料については、イとウのとおり、3段階、下限は4,500円とすること、また、エのとおり、全コースの講師料合算額の8割程度を受講料収入で賄うように設定することとしている。ただし、オのとおり大幅な値上げにならないよう配慮すること。以上の5項目を基準としている。

次に、2「令和8年度講師料及び受講料について」をご覧いただきたい。

令和8年度（案）について、講師謝礼金については基本的な考えのアに基づいた金額、定員上限については会議室の定員と各コースの実行委員から意見を踏まえた人数、受講料については基本的な考えのイ・ウに基づいた金額により作成している。今年度までは、社会起業・ビジネスコースと農業体験コース以外のコースについては、受講料を4,500円としていたが、以前より本運営委員会にて、社会情勢等を鑑み、受講料や講師謝礼金額の見直しを検討すべきとの意見を頂戴していた。講師謝礼金について、現在の農業体験コースの上限40万円、その他のコースの上限20万円を上回った場合、大幅な受講料の値上げが必要になる。そこで基本的な考え方のオ「過度な受講料増とならないよう激変緩和措置を講ずる。」に準じ、来年度の講師謝礼金額は変更せず、受講料を一律4,500円から5,500円に値上げしたい。

表の一番右の列の割合について、100%を超えているコースもあるが、例年定員割れをしているコースが多数見受けられる。また、盛人大学事業は市の補助金により運営しているが、近年、補助金の見直しが行われ、盛人大学も補助金の削減の可能性がある。そこで、受益者負担額を見直し、受講料の値上げを段階的に行いたい。コース全体の収支の割合について、基本的な考え方のエ、「コース全体として、受講料収入が講師料支出の80%程度となるように設定する。」という考え方にも沿う、82.3%となる。

下段の【参考】の表は、令和7年度の講師謝礼金額にした場合の割合で、より実態に即した割合を示しているため、参考までにご確認いただきたい。

次に、新コースのITコミュニケーションについて、講師からスタッフとは別に一般社団法人大人の小学校からアシスタントを付けたいとの申出があり、アシスタントにも謝礼金を支払いたくお諮りしたい。本コースは他のコースと異なり、実際にパソコンを操作しながら講義を進めるため、講師のみでは受講生全員に目が行き

届かず、アシスタントのサポートが必須となることからやむを得ないと考える。

アシスタントへの謝礼金は、講義1回を5,000円とし、講師への謝礼金は大学祭を除いた13回の講義のうち、10回分のみ支払予定であることから、アシスタントにも10回分のみ支払うこととし、アシスタントへの謝礼金50,000円を加えた25万円をITコミュニケーションの謝礼金年額としてよいか伺いたい。

また、受講料については講師謝礼金額と受講生の定員が少ない点等を鑑み、ITコミュニケーションコースは受講料を8,000円としてよいか併せて伺いたい。

資料右側の表は令和7年度の予算額と実績の見込みとなる。【参考2】の令和7年度予算額について、(a)講師謝礼金年額は各コースから申出を受けた講師謝礼金年額を記載している。(b)受講予定者は、予算作成の際には受講生が決定していないため、各コースの定員人数の8割の人数を記載している。農業体験コースのみ受講者数が確定していたため、実数を記載している。

下段の表の令和7年度実績（見込）は実際に受講が決定した受講者数を記載し算出した。国際コースのみ、当初申出があった講師謝礼金年額より1万円増額の申出があったため、予算額と変更している。

令和7年度の資料も参考に、農業体験コースとITコミュニケーションコース以外のコースの受講料を一律5,500円とすること、ITコミュニケーションコースの講師謝礼金合計額を25万円とすることと受講料を8,000円とすることの3点について、審議いただきたい。説明は以上である。

委員長 今の説明に対して、質問や意見はあるか。

副委員長 前年度に比べて、地域デザインの講師謝礼金額が約倍増しているのはなぜか。

事務局 上の表は上限20万円を支払った場合であり、下の【参考】の表は令和7年度支払う予定の金額を示したものであり、倍増しているわけではない。

副委員長 予算の表記としては、謝礼金は年間20万円とあるが、ならば11万円と書いてもおかしくないのではないか。

事務局 実態に即したものが下の【参考】令和8年度（案）に表している。

副委員長 下が参考で、上が（案）ではないのか。

事務局 上の表の謝礼金の年額20万円は、全てのコースにおける上限である。来年度については確定していないため、【参考】令和8年度（案）では実態の11万円としている。

委員 参考案について、受講者数を令和7年度の実績数、受講料を5,500円として算出した場合、受講料収入が講師料支出の8割を切るコースはどこが該当するか。

事務局 細かい計算は後程するが、基本的には現在8割を超えていないコースは、受講料を5,500円としても超えないと思われる。健康生きがづくりコースやボランティア入門コースは超えるかもしれない。

委員 厳しい状況であると思う。

委員 講師謝礼金全額、積算というのは、20万円を分配するものとして考えるのか、講師謝礼金が決まっており、合計額が20万円となるように予算を出しているのか。

事務局 講師謝礼金は1時間1万円、1日で2万円と基準が決まっている。

委員 その謝礼金を受講者で負担することとなっているのか。

事務局 8割以上の負担を目標としている。

委員 農業体験コースとITコミュニケーションが20万円を超えているのはなぜか。

事務局 農業体験コースに関しては、講義数が倍以上あるためである。

委員 ITコミュニケーションコースの講義数は他コースと変わらないのか。

事務局 変わらない。なお、受講料を8,000円と高く設定している理由は、募集人数が少ないためである。

委員 ITコミュニケーションコースの会場使用料は別額であるか。

事務局 そのとおりである。

委員 ITコミュニケーションコースの定員15名は、講師及びアシスタントが見ることのできる人数との認識で良いか。また、メディアセブンの収容人数はまだ余裕が

あるということでしょうか。

事務局 そのとおりである。

副委員長 ITコミュニケーションコースの25万円について、受講料の8,000円と会場費の3,500円を入れると、受講生を15名として、ITコミュニケーションコース受講生1人あたりの負担額は28,166円となる。一般のパソコン教室と比べてもほぼ変わらない金額であると思われる。民間と同じことをなぜ行政が行うのかという疑問を持たれることが考えられるため、この謝礼金設定は高いと思われる。

また、アシスタントに謝礼金を支払うことについて、今までの慣例からすると、認めるべきでないを考える。これまでは、講師謝礼金の中から出していた。事業を長く続けるためには、誰からも公平だと思われる運営を行わなければならない。基本的にボランティアで来ているため、皆で支えようという考え方でないのであれば、ITコミュニケーションはやめた方がよい。他のコースも20万円で運営しているため、それに揃えるよう説得していただきたい。

委員 今の意見に100%同意する。私自身も1つの講座を持っており、留学生のシンポジウムを行うが、自分の謝礼金から学生たちに支払っている。ITコミュニケーションコースにアシスタント分の謝礼金を出すようにするのであれば、他のコースも同様にする必要があると思われる。

事務局 講師に理解いただけるよう説明する。結果は報告させていただく。

委員長 他の点について意見や質問はあるか。

委員 6ページの資料について、ITコミュニケーションコースは別途会場費も徴収すると思われるが、表ではそれらを含めた金額や割合で表記するのがよいと考える。

委員長 現在は3つの点について審議している。受講料の下限について、ITコミュニケーションコースの受講料について、ITコミュニケーションコースの謝礼金についてである。

1点目の受講料の下限について、4,500円を5,500円とすることに意見はあ

るか。これまでも値上げしていこうという前提であったため、このとおりでよいと思われるが、異議はあるか。

委員 (異議なし)

委員長 ITコミュニケーションコースの受講料について、募集人数が少ないことを鑑みて、8,000円とすることに意見はあるか。

委員 民間と比較して、金額の設定はどのようになっているのか。

事務局 安くなっている。

委員 カルチャースクールとは違うため、目的や趣旨をしっかりと理解したうえでこの講義を行う方がよいと思う。

委員長 他に意見はあるか。

委員 アシスタントは何人を想定しているのか。

事務局 1人である。

委員長 それでは、初年度については8,000円としてよいか。また、講師謝礼金については20万円で理解いただけるよう事務局で対応することによいか。

委員 (異議なし)

(3) その他

委員長 事務局から何かあるか。

事務局 次回、第3回盛人大学運営委員会は令和7年12月から令和8年1月を予定している。日程については後日連絡する。

委員長 その他に質問や意見はあるか。

委員 募集要項について、各コースの理念などを含めて書かれていると思うが、もっと詳しく書かなければいけないと思う。この講座を受けたら、将来何ができるようになるのかをもっと分かりやすくする必要があると考える。

委員長 他に意見はあるか。

委員 当初の受講生人数と、現在の受講生人数の乖離がある点について、今後検証を行う機会を設けるべきだと考える。これまでの募集定員合計や実際の申し込み人数を年度毎にまとめ、それを基に意見を出し合っけてまとめることを提案する。

委員 募集要項について、現在はタイトルのみを記載しているが、各講義の概要を加えることを提案する。どのような講義をするかなど、講義内容を分かりやすくする工夫が必要であると考え。

委員長 今後、実行委員会で調整しながら行っていきたい。

委員 1年受講すると卒業としているが、卒業ではなく、習得とし、いくつかのコースの受講を終了したら卒業という形式にするのはどうか。受講者の多くが卒業生であることがよいとは思わないが、レベルアップのためにはこのような方法も検討してよいのではないかと。

受講者の平均年齢も上がってきていることもあり、若い年代へ戻すために何をすべきか考える必要があるかと思う。それには開催日の検討や、大学祭の開催方法について、キャンパスを別の場所にする、自由度を広げることなどを検討していただきたい。

委員長 その他に質問や意見はあるか。

委員 (特になし)

4 閉会 (11時30分)

会議の内容については、以上のとおりです。

令和 7年 8月20日

盛人大学運営委員会委員長

(松本委員長署名)

盛人大学運営委員会委員

(老川委員署名)
